

放送大学徳島学習センター出張講義一覧

平成29年度版

1. 工学：題目「環境・エネルギー問題の解決に向けて」

講内 義容	今日、電気エネルギー無しでは成り立たない社会になりました。電気エネルギーの消費は環境問題につながります。電気鉄道や電気自動車を駆動する上での『省エネ技術』や風力発電や太陽光発電など自然エネルギーを発電する『創エネ技術』が【環境・エネルギー問題】の解決に向けて大変重要な役割を果たしています。今日のエネルギー消費の現状を踏まえて、CO ₂ 排出などの環境負荷を低減して、持続可能な社会を構築するためにどのような技術が必要で、どのような観点で取り組む必要があるかを考えます。
対 象	高校生、保護者、教職員
氏 名	大西 徳生（放送大学徳島学習センター所長・徳島大学名誉教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備 考	必要備品 液晶プロジェクター、スクリーン

2. 英語学：題目「ことばの仕組みと働き」

講内 義容	人が操ることばがどのような仕組みを持ち、どのように働くのかを見てみます。その仕組みと働きを理解することにより、日本語母語話者が外国語である英語を身につけようとする時に、「英語強迫症」や「英語母語話者（ネイティブ）崇拝症」に罹ることなく、英語母語話者の英語運用能力に近づくことができると思われます。
対 象	一般社会人、生徒・保護者・教職員
氏 名	森岡 芳洋（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学名誉教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備 考	必要備品 液晶プロジェクター、スクリーン

3. 人文科学：題目「板東俘虜収容所とベートーヴェンの『第九』」

講内 義容	第一次世界大戦中、中国・青島（チンタオ）の日独戦争で降伏したドイツ俘虜たちのために現在の鳴門市大麻町板東の地に俘虜収容所が建設されてから、今年でちょうど百年、そして来年はその収容所でベートーヴェンの『第九』が演奏されてからちょうど百年になります。その『第九』が日本初演ということで、日独間の国際交流は現在も続いています。当時のドイツ俘虜たちにとってベートーヴェンの『第九』とは、一体、何だったのでしょうか。そのあたりに焦点をあててお話しします。
対 象	一般社会人、生徒・保護者・教職員
氏 名	石川 榮作（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学名誉教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備 考	必要備品 液晶プロジェクター、スクリーン

4. 人文科学：題目「ポルトガルの文人モラエスと徳島」

講内 義容	ポルトガルの首都リスボンで生まれたモラエス(1854-1929)は、神戸大阪ポルトガル領事の職を辞して、1913(大正2)年7月に徳島へ移住してきて、そこで『徳島の盆踊り』『おヨネとコハル』『日本精神』などの執筆をしながら、晩年を徳島で過ごします。一体、モラエスにとって徳島とは何だったのでしょうか。なぜモラエスは終(つい)の住処(すみか)に徳島を選んだのでしょうか。そのあたりに焦点をあててお話しします。
対 象	一般社会人、生徒・保護者・教職員
氏 名	石川 榮作（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学名誉教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備 考	必要備品 液晶プロジェクター、スクリーン

5. 工学：題目「地域の個性が輝くまちづくり」

講義内容	人口減少、少子・高齢化が急速に進行するわが国においては、このことに起因して、様々な問題が生じています。今後のまちづくりにおいては、人口減少、少子・高齢化をはじめ、防災や減災、環境負荷の低減、さらに住民の健康増進といった課題に配慮しながら、地域の個性が輝く、魅力的なまちづくり、地域づくりを進めることが求められています。この観点から、新たなまちづくり、地域づくりの視点や方策について、皆さんと一緒に考えたいと思います。
対象	一般社会人
氏名	近藤 光男（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

6. 工学：題目「脱炭素社会づくりに向けて」

講義内容	地球温暖化問題は21世紀に人類に課せられた最重要課題の1つです。この問題の解決に向けては、温室効果ガス排出量を可能な限り抑制し、地球の環境を持続させるために、多種多様な取り組みがなされています。本講義では、地球温暖化の現状やその影響について解説を行うとともに、温室効果ガスの排出を抑制し、脱炭素社会を構築するためにはどうしたらよいかについて、皆さんと一緒に考えたいと思います。
対象	一般社会人
氏名	近藤 光男（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

7. 看護学：題目「がん医療の発展とがん看護のプロフェッショナル」

講義内容	がん医療は飛躍的に進歩し、がんに罹っても長く生きられる時代になり治療を受けながら社会生活を送ることも可能になっています。一方、治療が長期に続くことによる身体的、心理的、社会的な新たな問題も発生しており、専門性の高い看護が求められています。この講義では、高度化するがん医療において期待されるがん看護のプロフェッショナルについて一緒に考えます。
対象	生徒、保護者、教職員
氏名	雄西智恵美（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

8. 心理学：題目「人生における心の変化とその対応」

講義内容	人間は生まれてから死に至るまでの人生において、さまざまな課題に直面し、それらの課題を乗り越えて、良い方向を目指して生きていくことを求められます。それぞれの年代（発達期）の特徴と課題について時代背景、その人が持っている素質などから検討し、どのような対応や支援が求められるかを皆さんと一緒に考えたいと思います。
対象	一般社会人，保護者，保育士，教職員，幼児・児童・生徒
氏名	山本真由美（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

9. 日本考古学：題目「有史以前の徳島」

講義内容	近年各地で考古学上の発見が相次いでいる。あまり知られてはいないが、徳島でも着実にその成果は蓄積されている。この講義では、徳島の先史時代はどのようなものだったのか、最新の研究成果をもとに、先史時代（縄文時代から古代ごろまで）の徳島について紹介していきます。 徳島の先史時代は、教科書などの概説書とは異なる面も多く見られます。そういった点を取りあげ、地域社会の原点を再発見していきたいと思ひます。
対象	生徒、保護者、一般社会人
氏名	中村 豊（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

10. 日本考古学：題目「徳島の考古学-農業の展開と青石の利用史から考える-」

講義内容	「弥生時代に稲作がはじまって、その後の日本文化の原点になった」このような考え方が普及しています。ところが、最近の研究では、縄文時代から農業が始まっていることが明らかとなり、弥生時代以後もアワやキビなどの畑作物がさかんに栽培されていたことが明らかになってきています。とくに畑作が盛んであった、徳島の古代農業について考えます。 徳島にありふれた「青石」ですが、古代から貴重な資源として石器や古墳築造の材料として周辺地域から招来されてきました。青石の利用から地域の新しい歴史像を再発見していきます。
対象	生徒、保護者、一般社会人
氏名	中村 豊（放送大学徳島学習センター客員教授・徳島大学大学院教授）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

11. 心理学：題目「ストレスと健康」

講義内容	私たちは嫌な出来事を経験すると、ストレスを感じます。ただし、同じような嫌な出来事を経験してもストレスを感じる人とそうでない人がいることも事実です。なぜ、ストレスを感じる人とそうでない人がいるのか、その答えを心理学の観点から考えてみたいと思ひます。
対象	一般社会人、生徒・保護者・教職員
氏名	古川 洋和（放送大学徳島学習センター客員准教授・鳴門教育大学大学院講師）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン

12. 心理学：題目「怖さ・不安を克服しよう」

講義内容	「高い所が怖い」，「歯医者さんに行くのが怖い」，「人と会うことに不安を感じる」など、何か特定の場所・物・人に怖さや不安を感じる人は少なくないようです。こうした怖さや不安が強すぎると、生活に支障をきたしてしまいます。怖さや不安を克服する方法を心理学の観点から考えてみたいと思ひます。
対象	一般社会人、生徒・保護者・教職員
氏名	古川 洋和（放送大学徳島学習センター客員准教授・鳴門教育大学大学院講師）
連絡先	放送大学徳島学習センター（TEL088-602-0151）
備考	必要備品 液晶プロジェクター，スクリーン